

IPCC第49回総会の京都開催に向けて

IPCCシンポジウム「気候変動への適応」

2019年2月19日

田辺清人 (IPCCインベントリータスクフォース(TFI) 共同議長)

IPCC

気候変動に関する
政府間パネル
Intergovernmental
Panel
on Climate Change
(195か国が加盟)



1988年に設立



IPCC 事務局
(在スイス・ジュネーブ)

第1作業部会
(WGI)

自然科学的
根拠

技術支援ユニット
(フランス、中国)

第2作業部会
(WGII)

影響、適応、
脆弱性

技術支援ユニット
(ドイツ、南アフリカ)

第3作業部会
(WGIII)

気候変動の
緩和

技術支援ユニット
(イギリス、インド)

国家温室効果ガ
スインベントリー
に関する
タスクフォース
(TFI)

技術支援ユニット
(日本)

執筆者、査読者 等の専門家

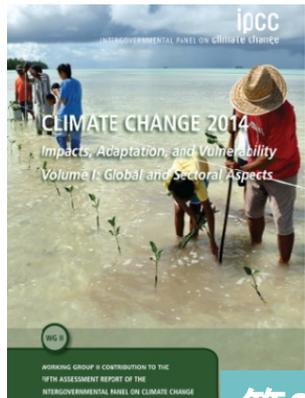


IPCC総会

- IPCCの意思決定機関。
- 加盟国政府の代表団が、毎年1回もしくはは複数回、会同。
- 各国政府の関連省庁や研究機関、また、オブザーバー機関から、数百名の政府職員や専門家が参加。
- 加盟国政府代表団の合意に基づき、以下を実施。
 - 予算と作業計画の決定
 - 原則と手続きに関する決定
 - IPCCの構造や各作業部会やタスクフォースの役割の決定
 - 今後作成するIPCC報告書の概要の決定
 - 科学者・専門家により作成されたIPCC報告書の承認
 - ビューローメンバー（議長団）の選挙 /等



年	月	回	開催地	主要な議題・イベント
...
2014	3	IPCC-38	横浜	AR5 WGII 報告書の承認
	4	IPCC-39	ベルリン	AR5 WGIII 報告書の承認
	10	IPCC-40	コペンハーゲン	AR5 統合報告書の承認
2015	2	IPCC-41	ナイロビ	IPCCの将来（AR6期）計画
	10	IPCC-42	ドブロヴニク	AR6期ビューローメンバー選挙
2016	4	IPCC-43	ナイロビ	AR6期に作成する報告書の決定
	10	IPCC-44	バンコク	1.5°C特別報告書・方法論報告書の アウトライン決定
2017	3	IPCC-45	グアダラハラ	土地関係及び海洋・雪氷圏の特別報告書の アウトライン決定
	9	IPCC-46	モントリオール	AR6のアウトライン決定
2018	3	IPCC-47	パリ	IPCC 30周年記念イベント
	10	IPCC-48	仁川(インチョン)	1.5°C特別報告書の承認
2019	5	IPCC-49	京都	方法論報告書の承認
	8	IPCC-50	...	土地関係特別報告書の承認
	9	IPCC-51	モナコ	海洋・雪氷圏特別報告書の承認
...

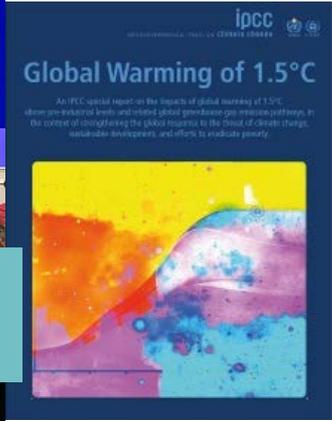


第38回総会(横浜、2014年3月)では、第5次評価報告書(AR5)のWGII報告書(適応関連)を承認

Source: #SD/ENB



第48回総会(仁川、2018年10月)では、1.5°C特別報告書を承認



第IPCC第49回総会は京都で開催(2019年5月)

主要な議題は、**インベントリータスクフォース(TFI)**により作成された「各国の温室効果ガス(GHG)算定のためのガイドラインの改良版(**2019年方法論報告書**)」の承認

インベントリー タスクフォース (TFI)



IPCC 事務局
(在スイス・ジュネーブ)

第1作業部会
(WGI)

自然科学的
根拠

技術支援ユニット
(フランス、中国)

第2作業部会
(WGII)

影響、適応、
脆弱性

技術支援ユニット
(ドイツ、南アフリカ)

第3作業部会
(WGIII)

気候変動の
緩和

技術支援ユニット
(イギリス、インド)

国家温室効果ガ
スインベントリー
に関する
タスクフォース
(TFI)

技術支援ユニット
(日本)

執筆者、査読者 等の専門家

世界中の国が使う温室効果ガス排出・吸収量算定方法を開発



TFIのTSUは日本に設置されている

WG1 TSU
(フランス、中国)

WG2 TSU
(ドイツ、
南アフリカ)

TFI TSU
(日本)
1999年～

IGES

IPCC 事務局
(在スイス)

WG3 TSU
(イギリス、インド)



AR6作成期間の各作業部会の技術支援ユニット (TSU)

TFIの活動への評価と期待

IGES



TFI TSU
(日本)

- 2006年IPCCガイドラインの完成・承認の後、IPCCを代表してパチャウリ議長から、小池環境大臣（当時）に手紙が送られた。
 - ◆TFIの数々の活動を賞賛
 - ◆TFIに対する日本の支援について、深い感謝を表明
 - ◆今後もTFIの活動の重要性は高まることを指摘
- 2007年にはTFIも含めてIPCCがノーベル平和賞を受賞。
- UNFCCCからの期待は今後も高まると見込まれる。
 - ◆パリ協定の実施にもTFIの仕事が必要不可欠



国家温室効果ガスインベントリーとは？

- ・ 人間の活動による温室効果ガスの排出・吸収に着目
- ・ 国内の年間排出量・吸収量を算定

GREENHOUSE GAS SOURCE AND SINK CATEGORIES	CO ₂ ⁽¹⁾	CH ₄	N ₂ O	HFCs	PFCs	SF ₆	Unspecified mix of HFCs and PFCs	NF ₃	Total
	CO ₂ equivalent (kt)								
Total (net emissions)⁽¹⁾	1245764.48	36099.86	22667.43	31776.63	3280.06	2165.76		1360.96	1343115.17
1. Energy	1250301.61	2484.74	6712.35						1259498.70
A. Fuel combustion (sectoral approach)	1249822.05	1667.77	6712.26						1258202.08
1. Energy industries	566643.99	293.16	2631.43						569568.59
2. Manufacturing industries and construction	338129.90	493.13	1854.26						340477.29
3. Transport	215803.65	169.55	1974.04						217947.24
4. Other sectors	129244.52	711.93	252.52						130208.96
5. Other	NO	NO	NO						NO
B. Fugitive emissions from fuels	479.56	816.97	0.09						1296.62
1. Solid fuels	0.49	533.12	NO,NE						533.61
2. Oil and natural gas	479.07	283.85	0.09						763.01
C. CO ₂ transport and storage	NE,NO								NE,NO
2. Industrial processes and product use	46551.39	46.38	1748.15	31776.63	3280.06	2165.76		1360.96	86929.33
A. Mineral industry	35111.89								35111.89
B. Chemical industry	4757.48	28.13	1389.13	147.44	110.80	92.80		1229.80	7755.57
C. Metal industry	6300.60	18.26	NO	1.29	9.59	159.60			6489.34
D. Non-energy products from fuels and solvent use	299.09	NO	NO						299.09
E. Electronic Industry				111.61	1631.36	351.31		131.16	2225.44
F. Product uses as ODS substitutes				31516.29	1517.95				33034.24
G. Other product manufacture and use			359.02		10.36	1562.06			1931.44
H. Other	82.33	NO	NO						82.33
3. Agriculture	531.74	27958.38	11040.64						39530.76
A. Enteric fermentation		7400.57							7400.57
B. Manure management		2411.31	4543.48						6954.79
C. Rice cultivation		18077.30							18077.30
D. Agricultural soils		NO	6475.78						6475.78
E. Prescribed burning of savannas		NO	NO						NO
F. Field burning of agricultural residues		69.20	21.39						90.59
G. Liming	369.97								369.97
H. Urea application	161.77								161.77
I. Other carbon-containing fertilizers	NO								NO
J. Other		NO	NO						NO
4. Land use, land-use change and forestry⁽¹⁾	-64926.94	57.79	209.36						-64659.80
A. Forest land	-68162.38	3.99	132.34						-68026.05
B. Cropland	3651.84	51.57	26.13						3729.54

IPCCインベントリーガイドラインと 気候変動枠組条約 (UNFCCC)

2013年に完成した補足ガイダンス

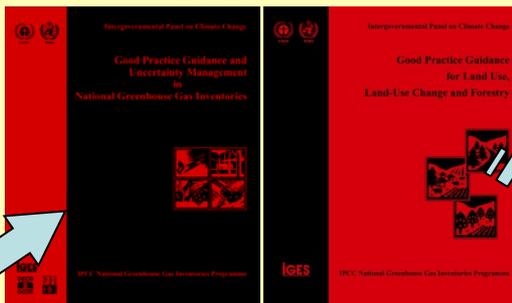
+



現在、UNFCCCの下で非附属書I国
(主に発展途上国)が使用

GPG2000
(森林等以外)

GPG2003
(森林等)



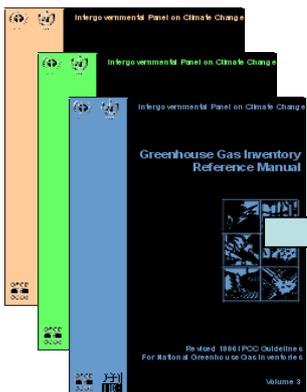
附属書I国(主に
先進国)は2015年
から使用

2006年
ガイドライン

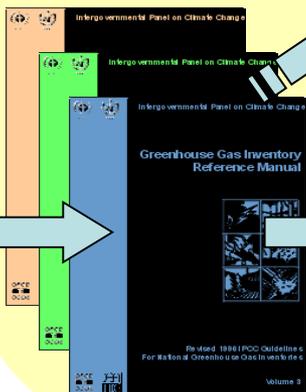


非附属書I国(主に途上国)は使用奨励

1995年
ガイドライン



1996年改訂
ガイドライン



実際には、2006年ガイドラインが多
くの非附属書I国で使われつつある。

IPCCによる改訂・進化

パリ協定と温室効果ガスインベントリ

- 各国がお互いを信頼してパリ協定を着実に実施していくためには、（緩和）行動に関する**透明性を確保する枠組みの強化**が必要。
- そのためには良質で信頼できる**温室効果ガスインベントリ**（**排出量データ**）を世界各国が作成・報告することが必要不可欠。
- パリ協定第13条7項
 - すべての締約国は、定期的に温室効果ガスの人為的な排出量及び吸収量の国家インベントリ報告書を提出しなければならない。



2019年方法論報告書とパリ協定

- UNFCCCのCOP24/CMA1（2018年12月、ポーランド・カトヴィツェ）で決定されたパリ協定の実施規則の中で、以下が定められている。
 - すべての締約国は、インベントリーを作成する際、**2006年版IPCCガイドライン**、また、**その更新・改良版**がIPCCにより作成されCMAが合意した場合はそのガイドラインを、使わなければならない。



京都でのIPCC第49回総会で承認される2019年方法論報告書は、まさにこの「(2006年版IPCCガイドラインの)更新・改良版」

IPCC第49回総会

今後もIPCC報告書が
続々と・・・。

- 土地関係SR
- 海洋・雪氷圏SR
- 第6次評価報告書

2018年12月
パリ協定実施規則

2019年5月
IPCC方法論報告書

2018年10月
IPCC1.5°C特別報告書

2016年11月
パリ協定発効

2015年12月
パリ協定合意



国立京都国際会館
2019年5月8-12日

京都議定書が誕生したCOP3（1997年）から22年。
気候変動問題関連の重要な国際会議が、再び京都で。

Home IPCC

IPCC-TFI Home

Organization

Technical Support Unit

NGGIP Publications

Presentations

Meetings

Support to Inventory Compilers

FAQs

Links

Emission Factor Database (EFDB)

Electronic Discussion Group (EDG)

The Intergovernmental Panel on Climate Change (IPCC) was established by the World Meteorological Organization (WMO) and the United Nations Environment Programme (UNEP) in 1988. Its main objective was to assess scientific, technical and socio-economic information relevant to the understanding of human induced climate change, potential impacts of climate change and options for mitigation and adaptation. The IPCC has completed four assessment reports, developed methodology guidelines for national greenhouse gas inventories, special reports and technical papers. For more information on the IPCC, its activities and publications, please see the [IPCC homepage](#).

The IPCC National Greenhouse Gas Inventories Programme (IPCC-NGGIP) had been undertaken since 1991 by the IPCC WG I in close collaboration with the Organisation for Economic Co-operation and Development (OECD) and the International Energy Agency (IEA).

[[More about IPCC-NGGIP](#)]

IPCC-NGGIP Publication



- 2006 IPCC Guidelines for National Greenhouse Gas Inventories
- Good Practice Guidance for Land Use, Land-Use Change and Forestry
- Definitions and Methodological Options to Inventory Emissions

ご清聴ありがとうございました。
IPCC TFIに関するさらなる情報は以下をご参照ください。

<http://www.ipcc-nggip.iges.or.jp/>

SB32

- Presentation of Side Event at UNFCCC-SB32 in Bonn, 31 May 2010 has been uploaded on [Presentations](#). (1 June 2010)

Meeting Documents Available

- Meeting Report

Future Meetings

-

Previous Meetings

- IPCC Expert Meeting on Uncertainty and Validation of Emission Inventories